

## 第34回 全史料協全国(奈良)大会を終えて

奈良県立図書情報館 鈴木 陽生

### はじめに

全史料協全国(奈良)大会は、平成20年11月12日(水)から14日(金)の3日間、錦織の大和路・奈良市において奈良ロイヤルホテルと奈良県立図書情報館を会場として、「わたしたちのアーカイブズー公文書館法20年と現在(いま)ー」のテーマのもとで開催され、全国から244名の方々にご参加いただきました。

今回は来賓として菊池光興国立公文書館館長のご出席をいただき、公文書を取り巻く内外の情勢や国立公文書館の取り組みを含めたご挨拶をいただいたのは特筆すべきことと言えます。「国際アーカイブズの日」の関連行事や、「公文書管理の在り方等に関する有識者会議」の最終報告が取りまとめられ、麻生内閣総理大臣に提出されたことなどにも触れていただきました。

また、今年度は、大会テーマにあるように、公文書館法が出来て20年が経過し、国をはじめとする新たな動きを見据えながら、今後の進むべき方向性を模索していく節目の時期であり、全史料協では今後の会の運営を方向づける個別具体化計画が提示された中での大会開催でした。

今回、紙面をお借りして、大会開催県として大会開催までの経緯や反省点、また今後の課題などに関してご報告いたします。

### 1 大会開催県へのヒアリングと情報収集

今大会が無事に終了できたのは、一言で括れば、直近の大会開催県からのアドバイスと資料提供によるものといえます。福井県文書館、岡山県立記録資料館、茨城県立歴史館からは、質問に対して丁寧な回答をいただき、運営のポイントなどについて詳細な資料や写

真とともにご教示いただきました。また、茨城県立歴史館からは大会グッズの引継ぎや大会直前におけるたび重なる質問に対しても懇切丁寧な対応をしていただきました。会報の紙面をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

### 2 会場選定

平成20年の大会が奈良県と決まってから、最初に取り組んだのは会場の選定でした。300名前後の参加者と、3つの会場に分かれて開催できる収容力を持つ公共の集会施設は奈良市内においても難しく、結果としてホテルの使用となりました。

会場となったホテルは近鉄新大宮駅から徒歩で約10分というところに立地し、参加者の宿泊のお世話も可能で、懇親会の会場や展示のスペースも兼ね備えていました。

問題は会場の使用料でしたが、ホテル側の格段の配慮と厚意により、何とか当初の予算内で運営が可能ということになりました。

大会当日の運営では、ホテル職員の手馴れた対応により、スムーズに運営することができ、担当者の負担も軽減できました。今後の大会開催では会計的な折り合いがつくようであれば、ホテルの利用も一考ではなかろうかと思います。

### 3 受付業務

大会参加者の参加費・懇親会費・宿泊代・弁当代などの会計業務や参加者のデータ管理は多岐に亘り、細かな金銭の取り扱いということもあって、当初から業務の一部を、業者に委託する方向で進めました。類似の業務経験があり、業務内容に正確に誠実に取り組んでもらえる業者ということで、実績のある旅

行取扱業者を特定し契約を結びました。また、大会には一人でも多くの方々に参加してもらいたいということで、当日の参加も含め、締切後も参加の受け入れを行いました。その後の参加者データの管理や大会当日の各受付用のリスト作成や要望に見合った請求書や領収書の作成に要する手間を考えると、一定期間の前に締切日を設定することも必要と感じています。

#### 4 展示

##### (1) 大会会場での展示

協賛企業の展示と機関会員の展示はともにホテル2階の宴会ロビーでおこないました。この場所はホテル内の3会場の動線上にあり、当初は相当の混雑が予想されましたが、結果として、移動時間を節約でき十分に展示を見る時間がとれたことで、参加者はもとより出展した企業や機関からも好評を得ました。

##### (2) 視察施設での展示

視察施設となった奈良県立図書情報館では、(財)元興寺文化財研究所のご協力により、2階のエントランスホールにおいて「古きを守るあたらしき技」をテーマに、文化財や歴史資料の保存や修復に関する最新の技術を表示紹介していただきました。同時に3階のブリッジにおいては、郷土史家藤田祥光(1877-1950)の著作や手写記録・文献資料からなる特別収集資料群のひとつ「藤田文庫」の資料展示を行いました。また、当日は晴天に恵まれたため、急遽屋上を開放し、平城京の京城に立つ奈良市街地や長屋王邸跡地、また東大寺や生駒山の遠望を楽しんでいただきました。

#### 5 懇親会

大会は組織や館種を越えた交流の場であり、情報交換と人的ネットワーク形成の場であってほしい。また、開催地奈良の魅力を知っていただく機会であってほしい。そのような思いから、懇親会は趣向を凝らした設定を行

いました。

古代から広く人口に膾炙されている万葉歌。この国民的な歌をジャズ風にアレンジして歌う芝山真知子さんのミニコンサートや清酒発祥の地とされる奈良県の地酒を集め提供させていただきました。お蔭様で161名という多数の参加があり、心ばかりのおもてなしを楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

また、奈良県は、平成22(2010)年に平城遷都1300年の記念すべき年を迎えます。今回、会場では休憩時間を利用して記念事業のプロモーションビデオを流させていただきました。県全体がアーカイブズの宝庫ともいえるこの地での記念事業開催につきましては、今後ともご協力をいただきたいと思います。

#### 6 課題

アンケート結果からは、開催形式に対する賛意と大会運営関係者への感謝の言葉が散見されました。大会開催県として光栄に思っています。一方、大会日程やプログラム内容、また大会運営における協議時間の配分や司会進行に関して、たいへん参考になるご指摘をいただきました。今後の大会運営に反映していただくよう引き継ぎたいと思います。

#### 大会を終えて

今大会はホテルを利用した開催となりました。研修会・分科会・大会諸行事が一箇所で行えること、宿泊施設や懇親会、展示コーナーも対応可能だったことは、大会関係者の負担を軽減でき、研修や協議に集中していただけたのではないかと考えています。

最後になりましたが、大会の活発な協議や交流はとりもなおさず、ご参加いただいた方々、一人一人の熱意とご協力によるものです。改めて、奈良の地にお運びいただいた方々に感謝いたします。ありがとうございました。